営農計画樹立に向けて

今年もあと一ヶ月、一年間の営農の総括の時期です。

配合飼料をはじめ生産資材の高止まりが続いていますが、ここのところ、乳価や個体販売価格が高めに推移し、ちょっとしたバブルな状況との話も聞かれます。

こんな時こそ、経営の中身を再点検してロスを無くし、所得の確保と、次の生産への投資も考えましょう。

1　営農計画書は経営の入り口

農業に限らず、経営を実行するには①計画（Plan）②実行（Do）③評価（Check）④改善（Action）を繰り返すことで経営の改善と向上をすすめていきます（図１）。

クミカンでは、③評価のための重要な経営データがまとめられ提供されます。そのクミカンを生きたものにするために、営農計画書（Plan）は次年度の経営改善へ向けた入り口であり戦略を立てる重要なアイテムです。

2　一年の実績を分析し改善戦略を立てる

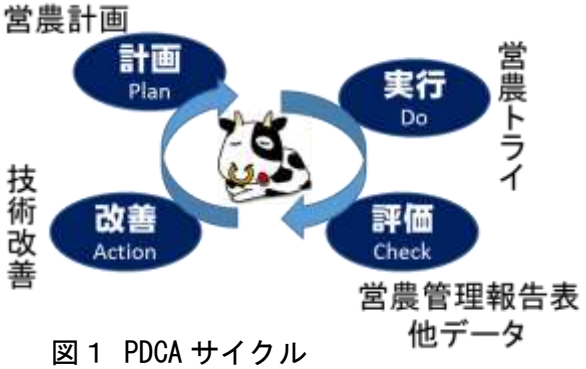

図１　PDCA サイクル

一年のクミカン実績で購入飼料費が計画よりも超過して、収支が悪化したとします。

原因は配合飼料が高くなったのか、粗飼料の栄養価の低下、発酵品質不良などの要因が考えられます。

また、乳量が計画ほど搾れない原因においても、粗飼料の品質や量、繁殖の状況、乳房炎の発生など多くの要因が絡み合っています。。

特に、本年の粗飼料生産は天候不順な状況から、牧草収量の減少と収穫時期の降雨による刈り遅れが見られ、品質低下が考えられます。また、サイレージ用とうもろこしにおいても、生収量と栄養収量の減少が顕著でした。

それらの状況も踏まえ、本年の経営を分析、評価して、来年の計画を樹立する事が重要です。

計画を考えるデータとして、クミカンの営農管理報告票、乳検データ（集乳旬報）や飼料分析値などを活用しましょう。

営農計画における改善に向けた基本技術としては、単年度で取り組む技術改善と、中長期で取り組むべきポイントを整理しましょう。

さらにステップアップを目指し、家族のイベントや投資に関することなども見据えて樹立しましょう（図２）。

3　家族や従業員との目標一致

農業経営では、生産に関わる者すべてが、計画・目標について一丸となって取り組まなくては、その達成は困難です。

技術的に改善しようとしたときに、労働の増加や作業の変更が伴うものです。ともに作業する人と合意なしに決定しては、後々トラブルの元になります。

関わる人と話し合い、目標を一致させ計画を樹立しましょう。

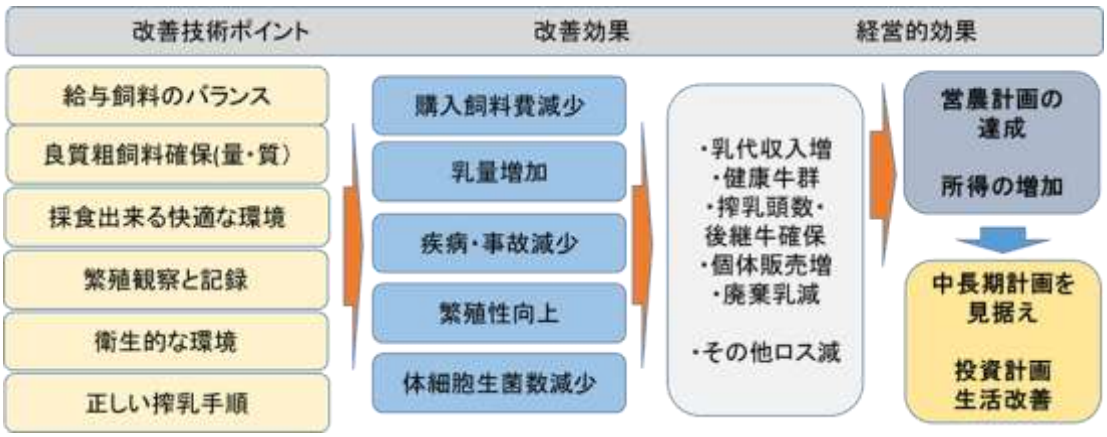

図２　営農計画における技術ポイント